

上越教育大学研究プロジェクト 終了報告書

研究代表者 所属・職名 自然・生活教育学系・教授

氏 名 岩崎 浩

研究期間 令和4年度～令和5年度

研究プロジェクトの名称	現代的教育課題と教科教育との教員養成次元での関係性の臨床的解明
研究プロジェクトの概要	<p>本研究では、専門職学位課程の共通科目領域「1教育課程の編成・実施に関する領域」において申請者らが開講している「教科の本質を踏まえたカリキュラムデザインの理論と実践」の授業実践を対象とし、受講者である現職院生及び学卒院生の学びの観点から現代的教育課題と教科教育との教員養成次元での関係性（両者をどのように関連づけることが、当該院生のどのような学びに繋がっているか）を臨床的に解明することを試みた。より具体的には、数学・国語・理科・社会という専門が異なる教科の教員養成に携わる教科教育研究者が協働で開講している授業において、専攻教科及び教職経験が異なる院生が相互交流することで、各自の教科の本質を深く認識し教科専門職性を高められるような授業デザインを開発・実践した。そして、実践した授業において受講者がどのような学びをしているか、特にどのようにして各自の教科の本質をより深く認識し教科専門職性を高めているかについて調査した。</p>
研究成果の概要	<p>本研究成果は主に次の2つである。1つは、専攻教科及び教職経験が異なる院生が相互交流することで、各自の教科の本質を深く認識し教科専門職性を高められるような授業デザインの開発：専攻教科及び教職経験が異なる院生が相互交流するグループ活動として、①各教科の立場から現代的教育課題（教科横断的教育・SDGs等）へアプローチする協働的な活動（1年目）、②専攻教科を異にする院生が各教科に固有の見方・考え方について議論し、まとめる協働的な活動（2年目）を核とする授業デザインの開発である。もう1つは、それぞれの授業において行われたグループ活動、全体での意見交流における対話記録、発表資料及び院生が書いた最終レポートの質的分析結果として、①及び②の活動が、専攻教科において当然と見なされている各教科に固有の見方・考え方をより明確に意識する契機となり、さらに専攻教科以外の人にも分かるように、それらを言語化する必要性を生じさせ、結果的に各自の教科の本質についてより深く思考し、教科専門職性を高めることに寄与しうることを明らかにしたことである。</p>
研究成果の発表状況 （※今後の予定も含む。）	<p>研究成果の概要において述べた主な研究成果は、今後、研究論文としてまとめ、学会において発表するとともに学会誌に投稿する予定である。</p>
学校現場や授業への研究成果の還元について	<p>上記本研究成果は、令和6年度から新たに専門職学位課程の共通科目領域「1教育課程の編成・実施に関する領域」において、本プロジェクトに参加した教員全員が中心となって開設する科目「教育課程の編成・実施の実践と課題」及び「創造的カリキュラム開発の実践と課題」のシラバス作成の基本的な考え方、資料として活用する。</p>